第 12 章　むすびにかえて

w240098e 田中真依

概要
本書ではグローバル化する国際社会において、南北問題が直面する様々な課題を考察してきた。そこで、まとめとして 12 章では、途上国の貧困の解決策についてや、途上国へのこれからの支援のやり方などを考察していく

1 .ミレニアム開発目標を達成するには何が必要か

ミレニアム開発目標（MDGs）:2000 年に導入し途上国の貧困問題の解決を目指している

↓

目標に向かって、先進諸国と途上国の共通の認識が高まる

しかし、意識だけで目標が自動的に達成されるわけではない

途上国の貧困の解決には…

経済成長
経済規模が持続的に拡大すること

⟷

補完的な関係である事が大切

社会開発
社会のあり方が質的に変化するもの

＊理想の実現はどこか一国だけの取り組みでは実現しない

つまり

パートナーシップという用語が、頻繁に用いられるようになったのは必然的結果

エンパワーメント、ガバナンス、リプロダクティブ・ヘルス、

近代化論が想定したように単純に途上国の貧困は解決できず、様々な用語・概念が登場した

↓ 用語の複雑さの一因

開発倫理学において、制度や政策の側面と価値や規範の側面の両方を意識的に考察しようとするからである。

この 2 つの側面をつなぐ意味で生計アプローチは重要

↓

問題を抱えつつも、行為者の主体性が周りの規範や制度と関わりながら、そのなかで制度や考え方の変化の仕方を考察しようとする

2.アフリカ地域の重要性

MDGs 達成が最も危ぶまれる地域→アフリカのサハラ以南

- 貧困率は世界一
- 人口 46%が貧困
- 人口の 3 分の 1 が栄養不足

問題点

- 経済成長、社会開発の指数から見ても際立って悪い
- 経済成長と社会開発の間に補完関係が構築されていない

↓問題解決は一筋縄ではない

他地域の開発経験の教訓から学ぶ事も重要

先進諸国の政府は利用したり、介入したりしてきた

3,日本自身の開発経験を途上国に生かす

今後の国際協力に日本はどのように取り組むべきか

近年の開発研究…日本自身の経験を途上国の支援に生かす

↓しかし、課題が浮かび上がる

1,日本の国際協力は日本自身の経験を積極的に活用してるとは言い難いこと

2,日本国内の地域おこしや地方改革と、途上国支援という国際業務の間に交流がほとんどないこと

ここでは先進国と途上国を統一的にに考える視点が大切

私たちにとって重要な視点は現在の日本の地域政策や町や村の再活性化と途上国の開発を総合的視点でとらえなおすことである。そして日本の地域の指導者たちと途上国の関係者の間の相互交流・相互学習を実現することである。そのような取り組みの中から、新たに意義深い開発協力の芽が出てくると期待される。